



ERSPAN ヘッダ ストリッピングの設定

この章では、Cisco Nexus プラットフォーム スイッチの ERSPAN ヘッダ ストリッピング手順について説明します。これの主な使用例は、Nexus Data Broker (NDB) スイッチです。

この章は、次の項で構成されています。

- [ERSPAN ヘッダ ストリッピングについて \(1 ページ\)](#)
- [ERSPAN ヘッダをストリッピングするためにサポートされる PID \(1 ページ\)](#)
- [ERSPAN ヘッダ ストリッピングに関する注意事項と制限事項 \(2 ページ\)](#)
- [ERSPAN ヘッダ ストリッピングの設定 \(2 ページ\)](#)
- [ERSPAN ヘッダ ストリッピングの設定例 \(4 ページ\)](#)
- [ERSPAN ヘッダ ストリッピングの設定の確認 \(4 ページ\)](#)

ERSPAN ヘッダ ストリッピングについて

この機能は、NX-OS スイッチまたは NexusData Broker (NDB) スイッチの着信 ERSPAN パケットからのインライン ERSPAN ヘッダ ストリッピングを実装します。

ERSPAN パケットが着信すると、この機能によって ERSPAN ヘッダが削除され、インラインで外部ボックスに転送されます。つまり、パケットは終端ポートに着信し、ACL 設定に基づいて、外部サーバに接続されているポートにリダイレクトされます。

この機能は、単一パスの ERSPAN ヘッダ ストリッピングと PAACL リダイレクトを実行します。

ERSPAN ヘッダをストリッピングするためにサポートされる PID

Cisco NX-OS リリース 10.2(1)F 以降では、Cisco Nexus 9300-FX2、9300-FX3、9300-GX、および 9300-GX2 プラットフォーム スイッチで ERSPAN ヘッダ ストリッピングがサポートされています。ただし、この機能は TOR スイッチでのみサポートされます。

ERSPAN ヘッダストリッピングに関する注意事項と制限事項

- 着信ポートはレイヤ2ポートである必要がありますが、レイヤ3への接続はSVI経由である必要があります。
- 終端ポートが同じ場合、VXLANストリッピングとERSPANストリッピングは共存できません。
- ERSPAN宛先とERSPANストリッピングは共存できません。
- ポートチャネルメンバーを含む終端ポートの総数は、31を超えることはできません。
- この機能にはモードタップアグを設定しないでください。
- 特定のERSPANセッションIDの終了はサポートされていません。ERSPANセッションIDを持つトラフィックは、終端ノードで終端されます。
- ERSPAN削除/リダイレクトが正しく動作するように、ポートでERSPAN削除を有効にする必要があります。他のストリップが有効になっているポートでは、ERSPANトラフィックを送信しないでください。
- 終端ポートのすべての着信ERSPANヘッダを削除します。
- この機能は、OFMheaderおよびACLリダイレクトが設定されている場合にのみ機能します。
- この機能は、ポートACLがレイヤ2終端ポートに適用されている場合にのみ機能します。
- スイッチ上のERSPANカプセル化のトンネルプロファイルは1つだけです。
- この機能はIPv6をサポートしていません。

ERSPAN ヘッダストリッピングの設定

次の手順では、ERSPANヘッダストリッピングの設定の概要を示します。



(注) 次のCLIがインターフェイスでERSPANのストリッピングを有効にするように設定されていることを確認します。

- `encapsulation erspan`
- `flow terminate interface add e1 / 16`

上記のCLIのいずれかが欠落している場合、ERSPANの除去は、CLIで指定されたポートでは発生しません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	feature ofm 例： switch (config)# feature ofm	機能を有効にします。
ステップ 3	tunnel-profile <profile-name> 例： switch(config)# tunnel-profile foo switch(config-tnl-profile)#	スタティック ERSPAN トンネルを有効にします。
ステップ 4	encapsulation erspan 例： switch(config-tnl-profile)# encapsulation erspan switch(config-tnl-profile)#	トンネル プロファイルの適切なカプセル化タイプを設定します。
ステップ 5	erspan session-id all 例： switch(config-tnl-profile)# erspan session-id all	ERSPAN セッション ID は、関連する ERSPAN パケットが送信元スイッチで関連付けられているモニタ対象セッションを示します。
ステップ 6	flow terminate interface add ethernet 1/16 例： switch(config-tnl-profile)# flow terminate add interface add e1/16	フロー条件リストに ethernet1/16 を追加します (フロー CLI が設定されていない場合)。
ステップ 7	ip access-list <access-list-name> 例： switch(config)# ip access-list test switch(config-acl)#	IPACL を作成し、IP アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 8	[no] permit protocol source destination redirect interfaces 例： permit ip any any redirect interface ethernet1/1,ethernet1/19	条件ごとにトラフィックのリダイレクトを許可する IP ACL ルールを作成します。 このコマンドのいずれのバージョンも、ポリシーからのパーミッションを削除することはありません。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) TAP アグリゲーション ポリシーのインターフェイスを入力するときは、それを省略しないでください。インターフェイスのリストを入力するときは、コンマで区切り、スペースを入れないでください。
ステップ 9	ip port access-group <access-group name>_redir in 例 : <pre>interface e1/16 (config-if)# ip port access-group foo_redir in</pre>	ERSPAN ストリップ/終端ポートにポート アクセス リストを適用します。

ERSPAN ヘッダストリッピングの設定例

次に、ERSPAN ヘッダストリッピングの例を示します。

```
switch(config)# feature ofm
switch(config)# tunnel-profile foo
switch(config-tnl-profile)# encapsulation erspan
switch(config-tnl-profile)# erspan session-id all
switch(config-tnl-profile)# flowterminate interface add e1/16
switch(config)# ip access-list test
permit ip any any redirect interface ethernet1/1,ethernet1/19
interface e1/16 (config-if)# ip port access-group foo_redir in
```

ERSPAN ヘッダストリッピングの設定の確認

ERSPAN ヘッダストリッピング設定を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show run ofm	トンネル プロファイルを表示します。
show run acl mgr	インターフェイス上のすべての ACL とそれらの ACL のアプリケーションを表示します。